

# これからの 保育室と遊戯室

今回は、一般的に建っている幼稚園のプランから、ここで一般的に行なわれている生活を紹介しました。

今回は、最近行なわれており、将来も意味があるものとして生きていく保育を取り上げ、この保育を将来のプランで行なった時に生れてくる諸々の困ったことをお話ししよう。更に、この保育と建物との相関を捉えるために行なわれたさまざまな調査の一つを紹介し、次回で新しいプランを考える橋わたしといたしました。



## 自由型保育

前回のような、先生の指導のもとに組全員が同一場所で同一行動をし、この遊びの転換も、各自の生理的行為も一斉に行なおうとする保育（一斉型保育）にたいして、これと直交する軸のように異な

## 2. 自由型保育と従来のプラン

日 下 あ こ

②

った保育が見出されます。これは、園児各自の自発的な興味の流れによって次々と起ってくる遊びを先生が助け導いていくといった保育の仕方です。

これは主として自由保育と呼ばれ、戦前からあったものですが、戦後アメリカの影響もあって、日本で広く取り上げられるようになったものです。しかし英・米その他西欧諸国ではすっかり影をひそめた一斉的な保育がまだ依然として日本で見られ、一方で自由型の保育がさかんにとなえられても、実施面ではまだ一般化されているとはいえない現状です。この理由は、①この保育指導のできる先生がまだ少ないこと、②子どもが自由に遊べる空間構成や、こうしたときにも、先生がいろいろな所で遊ぶ子どもを見守れるような建築計画がされていないこと、③この保育に必要な、子どもの興味をそそるような種々の遊び場や道具が現状では貧困なこと、更に、④子どもにとって成長をうながすための学習指導が、こうした自由的な保育ではむづかしいと考えられていること、が原因になっています。

こうした障害があるにもかかわらず、自由型保育では、子ども達を自発的に遊ばせながら個々の問題を個別にあたって助けていくのですから、幼児の生理的な生活も含めた全生活的な保育ができること、個別を伸ばし、遊びを通じて学習を体得していくことも、この方法によってはじめて可能であることなどの利点から、公立幼稚園

では、自由型保育が熱心に研究され、都内ではほとんど一般化されつつあるし、また小学校でも低学年にはこうした教育を行なおうとする気運があります。

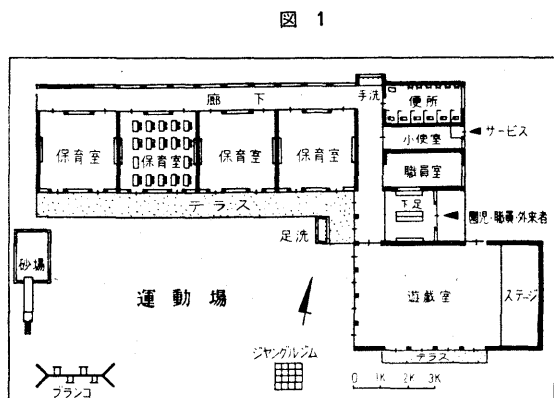
保育の形態は、ここで上げたように一斉型と自由型の2つしかないわけではない。この分類は、建築空間に保育が投影された時に、全く異なった形に写るものとして一斉型と自由型の2要素が抽出されたまでである。この2要素は、直交する2軸のように、全く異なった方向性を辿るものであり、一方現存する保育の形態は、この2要素をいくパーセントかずっ含んででき上っているのです。建築空間に投影された時に全くの自由型とか、全くの一斉型とかいったものは極めて稀である。

また、こうした自由型の保育を行なっている園でも管理やしつきの面から、食事や登園・退園のさいの出欠席などは、従来と同様の一斉的な方法で行なわれているし、その他、年間行事の催し物や、幼稚園の伝統的な遊びといわれるリズム遊びも、多数の幼児を楽しく遊ばせるので、いまなお重んじられ、日常保育に取り入れられている。

こうして、一斉保育の良さも残し、自由型保育の時間をできるだけ多く取り入れようとする努力が行なわれているのであるが、建物の方はどうであらうか。

## 従来のプランとの葛藤

従来の一面的な保育と異なり、幼児の全生活的な保育が育つてきたが、これを入れる器はまだ旧態然とし、こうした保育に沿った計画がされていないので、実際にはなかなかうまくいかないのである。たとえば、前回に載せた図―1の保育室には、机とイスを置けば、それだけで一ぱいで、ほかになんの空間も残されていない。屋



内の床を這い廻って築き上げる汽車のレールや、箱積木からできる巨大な建築物、さらに輪投げやおはじき、コマ転がしなどをするだけの空間はどこにも残されていない。また日のあたる窓際には球根や小鳥が飾られているが、ここをよりどころとして、これに水をやりたりする

水いじりなんかする空間構成がない。

その他オママゴトに似た人形・お家ゴッコ・郵便屋さん・八百屋さんゴッコといろいろな真似をする遊びがあるが、ちょっともぐりこんでみたり、のぞいて見たりする遊びのより所となる空間がない。

図―1の遊戯室も、全園児が集まる行事用の集会室として計画されているので、ガランとして大きいばかりで生活のよりどころがない。それに、自分の生活の根拠地の保育室からひどく離れているので、遊びにも行き難いし、遊んでも落ち着かない。先生も目が届かないので心配だ。それにただ走ったりわめいたりするだけでなく、平均台の上のジャンケン遊びや、マットの上でぐるぐり返りのような道具による遊びとか、すでに建築化されたステージから飛び下りたり、もぐったりするとか、中二階から魚釣りしたり、滑り下りたり子どもはしたがるのだが、このだだっ広い遊戯室ではそんなことはできそうにない。

廊下も子どもにとっては単なる通路でなくて、汽車を走らせたり車を引き回したりする直線的な遊び場だが、北側のせまい暗い廊下では不安で遊びも長く続かない。

テラスや庭での活発な楽しい遊びも、先生の指導によって一斉に出て遊ぶときとちがって、子どもが興に乗ったときに飛び出して行くのだが、こんなとき昇降口まで回ってはきかえて出なければならぬのでは、せっかくの興味もすっかりそがれてしまいうし、遊んで

いるときも先生の姿がちらほら見えないような所では、落ち着いて遊びに熱中もできない、など、自由な遊びにはまったく不向きにできているのである。

### 建築側から調査した自由型保育

さて自由型の保育を行なうとすると、このために建築側は、園児が好きな場所で充分遊べるように園児各々の年令や性別に応じた遊び場を設ける必要が起る。ここでは、このための資料として多数研究された中の、一例として 遊び場所別に見られる年令差と男女差の問題にしばってまとめた調査結果を参考までに紹介しよう。

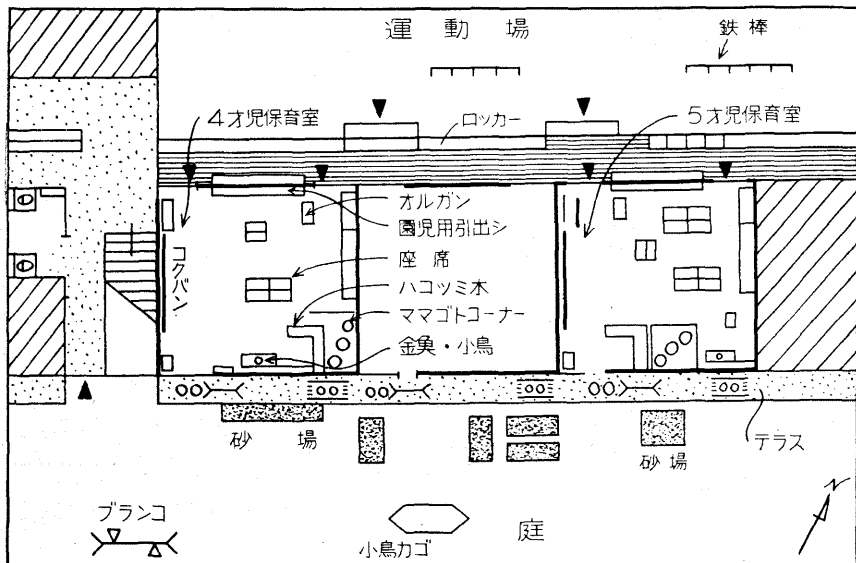
### 調査方法

対象園は、結果が特殊なケースになることをさけ、建物・職員数・保育内容共に基準値で納まっている公立幼稚園の一つを取った。

調査日は、年間行事・短縮保育日など特殊な日を選び、また園児が園に不慣れた季節をさけ、秋を撰んだ。一般の日常保育日の一九五七年十一月三日（水）晴と 一二月一日（水）晴 の両日と、保育時間全部を調査した。

調査対象児は、三才からの登園はまだ一般的でないので、今回は四、五才児 各一組ずつをとった。（五才児 三十六人内 男子一九

第1図 遊び場の位置



人、女子一七人、 四才児 三六人内 男子一八人、 女子一八人)

両組の遊び場の条件は共に保育室の大きさは一八坪、室内の遊具は同一、運動場、庭は共通(第1図)。自由保育時間は、五才一八五分、四才一六五分であった。すなわち、両者の保育中の遊び条件は同一のものと考えられる。

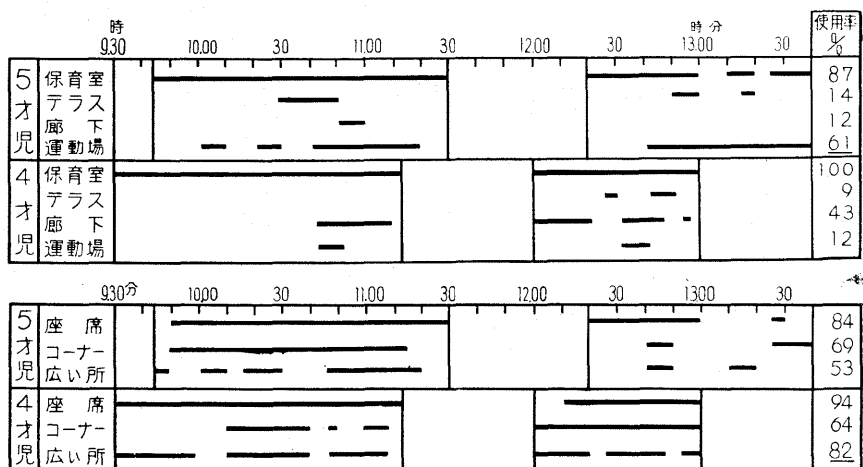
調査方法は、組別に色違いのリボンをつけさせ、調査員は、プランの記入された紙面に園児の遊び分布状態を五分ごとに紙面を代えて記入した。

## 調査結果

(1) 遊び場所 場所を大別して、保育室N・テラスT・廊下C・運動場G として各々の使用時間を見ると、第2図となる。すなわち、五才児にとっては、NとGとが平行した二大遊び場で、T・Cが附屬的に使用されているに反し、四才児にとっては、N一本が遊びの根拠地となり、T・G・CはこのNの遊びがはみ出てきて時々遊ばれた形になっている。すなわち四才児の生活園がN中心に納っているに反し、五才児のそれは、N・Gに股った広いものである。

更にN内を遊び方の異なる三つの空間、①個別に集中的な遊びのできる各自の座席のある空間、②ある種の遊びを想定して空間構成がされているコーナー部分、③活発に動ける広い空間、に三大別し、その使用時間表を見ると、①②③空間共に平行してよく使わ

れているが、更に詳しく見ると、四才児の方が③の広い空間の使用率が非常に高い。これは四才児はGに出ず、N内の広い所で遊びを満足させているからである。今、各々の使用時間を性別に分けて見ると、第1表となる。N・Tは共に男女の遊び根拠地として重要で



第2図 場所使用時間

第1表 性別使用時間(分)

		全使用時間		男	%	女	%
5才児	保育室	170	100	155	92	170	100
	テラス	35	100	20	57	30	86
	廊下	10	100	10	100	0	0
	運動場	120	100	120	100	70	58
4才児	保育室	165	100	165	160	160	97
	テラス	15	100	15	100	15	100
	廊下	70	100	70	100	30	43
	運動場	20	100	20	100	10	50

5才児	座席	135	100	130	97	135	100
	コーナー	110	100	20	18	110	100
	広い所	85	100	45	53	85	100
4才児	座席	155	100	155	100	145	94
	コーナー	105	100	70	67	100	95
	広い所	135	100	135	100	80	59

あるが、G・Cとなると男の子が中心となる。またN内の空間では、座席は男女共最も長く遊ばれる所であるが、コーナーは女の子が中心となり、一方広い空間は男の子中心となる。但し、五才では広い空間も女の子が中心で男の子は少ない。これは、五才の男になると活発な遊びはもうN内でおさまらず屋外で行なうためである。

(2) 遊びの種類 当日行なわれた全園児の遊びを場所別に書き出すと第2表となる。ここから年令差のある遊びを拾うと、屋外の五

第2表

当日行なわれた遊びの種類

室	場所	遊 び 内 容
保育室	座席	ゴム粘土 絵本 お絵書(クレヨン) 折紙 切紙 ハリ紙 ナイロンヒモ結び ●ボンヤリ坐る
	コーナー	ママゴト 人形 オルガン弾キ ●鏡ノゾキ ●電車ゴッコ ●金魚観察 コクバン絵書
	広い所	引出整理 人形ゴッコ 車引き 八百屋ゴッコ アバレル ○ボンヤリ立ッ ○マリツキ ●竹の環転ガシ ●スモウ・ケンカ 立話し 小型積木 箱積木
テラス		手洗 ママゴト ○手つき ●ボンヤリ見ル
運動場		砂場 オニゴッコ ボール投げ 先生ノ飼育見ル ●土イジリ ●鉄棒 ブランコ 落葉拾い ○ナワトビ ボンヤリ立ッ
廊下		○ロすすぎ 水谷 手洗 雑巾洗イ 下足 ●カバン見ル 車引き廻ス ●走ル ●汽車ゴッコ 壳屋サンゴッコ ○人形オンブネンネ

註

5才のみに現われた遊び  
4才

●男の子  
○女の子

性別のある遊びを拾うと、殆んどの遊びは男女共一応の興味を示すがそれでも、なお、当日男女孩いづれか一方のみにしか遊ばれなかったものがある。すなわち、男の子のスモウ・環転がし・鉄棒・汽車ゴッコ、女の子のマリツキ・人形・ナワトビである。これらは遊び時間が短かいが性別を感じさせる遊びである。

(3) 遊び継続時間 各遊びを年令・性別に分け、継続時間を示すと第3表となる。座席での粘土・絵・工作やコーナーのママゴト遊

も長く遊ぶが、その他の遊びには偏よりが見られる。

一般に屋内の広い所で行  
 なう車・スモウ・積木・立  
 話の遊びは四才が長く、屋  
 外の砂場・鬼ゴッコ・ブラ  
 ンコの遊びは五才が長い。  
 その他五才のオルガン、四  
 才のコクバンが目立つが、  
 前者は四才が弾けず、後者

平均人数	平均継続時間 分
●●●○○ ●●●○○	7 0 1 7
●●●●○○○○○ ●●●●○○	9 5 5 5
●●●●○○○○○ ●●●○○	2 0 3 0
●○○ ●●○○○	2 5 2 7
●	2
●●	1 0 5
○○ ●●○○	1 8 5
●●○○○	1 8
○○	1 0
○ ○○	3
●○ ●●○	5 1 0
● ●●●	1 5 1 0
●●●● ●●●○○○	1 0 1 0
●○ ●●○	5 1 0
●●○	5
● ●●○	1 0 2
●●○○○ ●○○	1 0 1 0
●●●●● ●●●●	1 6 1 0
●●●●●○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ●●●●○○	3 0 1 0
○○○○○ ●○	1 0 1 0
●●	1 0

は先生がこの時指導したために生れた差であろう。

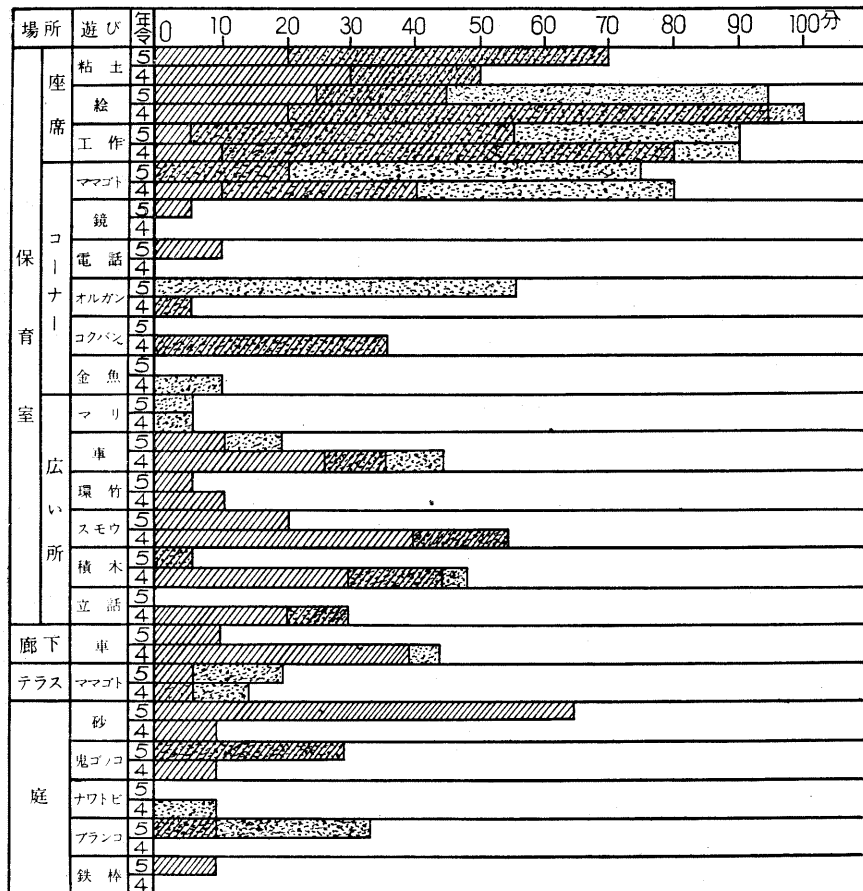
男女差としては、(2)で述べた性別で好みが違う遊びの他に男女一しよに遊んでも、ママゴトのように女の子を主とする遊びとその逆の遊び(スモウ・積木)がある。また全く男女協力して遊ぶもの(鬼ゴッコ)や興味を互にそそられて男女平行して遊ぶ(絵・工作)がある。

(4) **遊び人数** 遊び平均人数を第3表に添えた。遊びグループは鬼ゴッコの一八人をのぞくと一般に三、四人程度で小規模である。人数の移動を示すために代表的だと思われる遊びについてその遊びが興に乗った最大継続時間の時の参加人数変化表を第3図に示す。

これを見ると、①多人数で短時間遊ばれるもの（オニゴッコ）と②小人数で人の出入がなく続くもの（オルガン・環竹コロガシ・砂場）がまず目立つ。これらでは、四才は五才より人数・継続時間でやや劣る傾向がある。更に③小人数で長く続き、これに時々多くの人数がドット参加して来る遊び（ネンド・絵書）や④人の出入りは絶えずあるが遊び全体としては長く続いているもの（ママゴト）などに分かれる。

#### まとめ

こうして見ると、年齢や性別によってははっきりした差というものは見分けられ



註

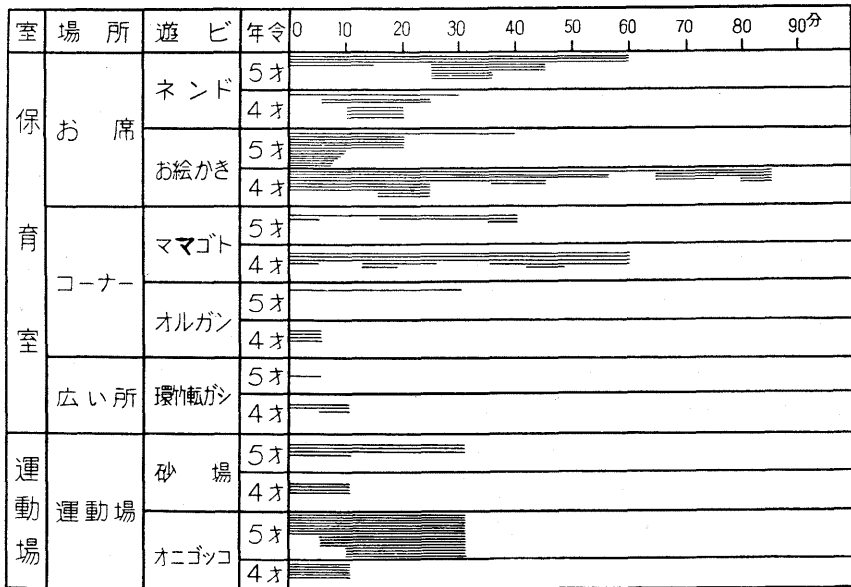
- 男のみ遊んだ時間
- 女のみ遊んだ時間
- 男女一緒に遊んだ時間

● 男の子  
○ 女の子

第3表 各遊び総時間及び平均人数



第3図 最大継続時間における人数の変化



ないが、どちらかと言うと、五才児は指先の巧緻さ、頭脳の発達程度、体の動かし方、共に優れているので、屋外では卒先して遊具をあやつり、屋内では、大がかりなむつかしい遊び（箱積木・オルガン・工作）に関心を持つが、これに反し、四才児は複雑・活発な遊びができず専ら屋内で活動の少ない容易にできる模倣や観察遊び（ママゴト・人形ゴッコ・八百屋さんゴッコ・小型積木・金魚観察）に余念がない。性別による遊びの差としては、N内の座席での遊びは性別なくよく遊ばれる所であるが、種々のコーナーは、どちらか一方の性に適して、これに協同的に他の性が加わる遊びである。N内の広い空間での遊びは、性別に異なる遊びが同時に平行して行なわれる。例えば男の子がスモウをとり汽車を走らし、女の子は隅でマリツキに余念がないなど、これに反し、庭での遊びは一般に男の子が多く飛び出し、女の子が大量に出るのは、先生中心に鬼ゴッコが始った時などにつれられて出て行く傾向がある。こうした遊びの男女差は四才児から少しずつ現われてくる。しかし、これら年令では指導によってもフレが大きくなる傾向はあるが、まだ確定的なものと言いだらう。

× × ×

今回は、やや堅い感じになりました。次回は具体例をたくさん入れて、これからの保育室と遊戯室の作り方を説明いたしましょう。